



「選ばれ続ける都市」を目指して

八王子市長

石森孝志

「まちづくり研究はちおうじ」は、本市の都市政策研究所の機関誌であり、発刊第10号となる本号では、「人口構造の変化を見据えた八王子のまちづくりー地域特性を活かした『選ばれ続ける都市』を目指してー」と「日常生活圏に着目した市民サービスの充実ー隣接自治体等との連携による地域課題の解決を目指してー」に関する都市政策研究所の調査研究の成果をとりまとめています。特に、「人口構造の変化を見据えた八王子のまちづくり」については、少子高齢化に伴う人口減少への対応が本市においても喫緊の課題となっていることから、調査研究テーマとしたものです。

本市の総人口は、横ばいを続けているものの、2013（平成25）年3月に策定した本市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」では、2020（平成32）年に総人口の減少が始まると推計しております。そこで、広大な市域を有する本市においては「地域特性」があり、地域における人口構造や将来推計人口なども異なっていることから、「人口構造の変化を見据え、地域特性を活かしたまちづくり」を進めていくことが重要であります。

そのためには、例えば、大学等への入学年齢にあたる世代の若者が多く転入している特性を活かし、本市に転入した学生が、大学卒業後も本市に住み続けるための取り組みが考えられます。また、未就学の乳幼児を持つ子育て世代や若い勤労者世代が長く居住する住居の決定時に本市を選んでもらえることが必要です。

今回の調査研究では、「居住地の選択」が人口の増減との関わりが深いことから、地域の何が「魅力」となり、市民の定住意向に結びついているか調査分析することが、「その地域の持つ強みの確認」に通じるものとしてしています。本市は市民の定住意向が高く、毎年実施している市政世論調査によれば、約9割の方が「八王子市に住み続けたい」と答えていますが、「居住地選択」の際に重視する視点である「八王子市が居住地として選ばれた理由」や「八王子市から転出したいと思う理由」を分析した政策展開が求められます。

定住人口の維持・増加を目指した戦略的な発信としてのシティ・プロモーションを行うとともに、居住地の候補となる「地域の良さ（強み）」を内外に示すことで、いつまでも八王子に住み続けたいと思ってもらえるような「活力ある魅力あふれるまちづくり」を目指して取り組んでまいります。

（いしもりたかゆき・八王子市長）